

道路等維持管理支援システム Manesus

テーマ 維持管理、日常管理、支援情報システム

キーワード クラウド、情報共有、DX、ICT、リアルタイムマネジメント・モニタリング

次世代型マネジメントサービス

要員や予算などの不足に関する課題が今後ますます進行していくなか、従来通りの日常管理「住民要望受付～措置」で住民サービスを維持することは厳しくなると考えられます。

そこで、次世代型マネジメントサービスでは、住民・管理者・受託者の3者全員が利益享受できるようにすることを目的としています。

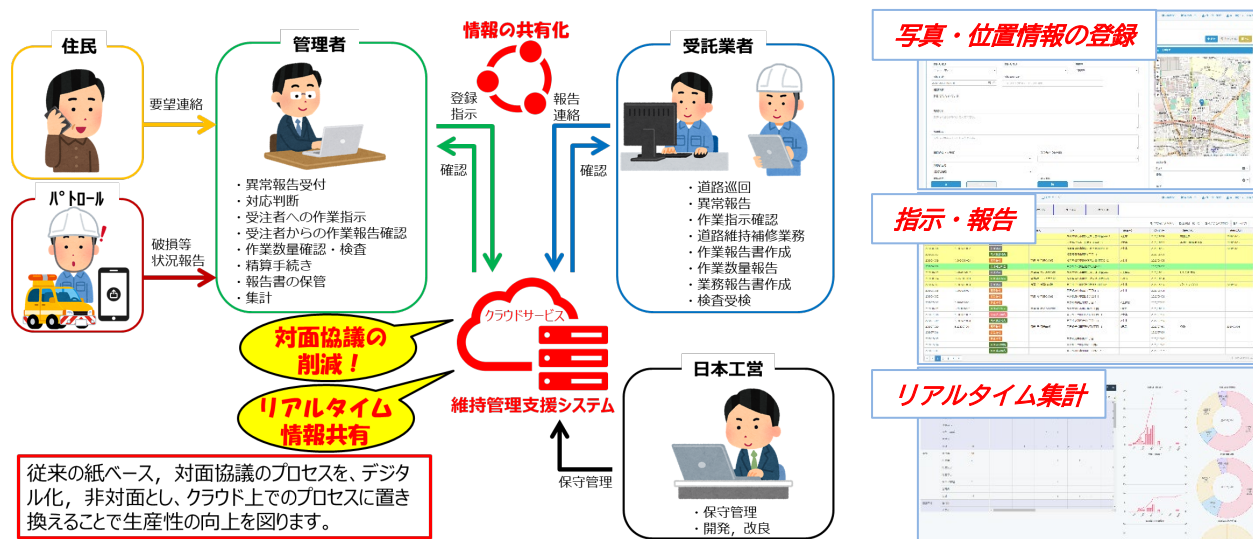
- 住民：措置対応の迅速化によるサービス水準の向上
- 管理者：作業、判断の時間が短縮され、負担軽減となる
- 受託者：協議、資料作成の時間が短縮され、効率向上



システム内容

本システムは、インフラの日常管理に「リアルタイムマネジメント」の概念を取り入れ、マネジメントと支援システムを一体化したモデルです。新たな技術を取り入れながらインフラの維持管理の効率化・高度化を行います。それらは以下に示すシステムの仕組み・機能で実現します。

- ①管理しているデータの見える化・デジタル化
- ②スマホ・タブレットも利用可能
- ③インターネット接続でどこでも共有、クラウドで管理
- ④写真・位置情報等データ一元化によるリアルタイムでの情報共有
- ⑤管理者－受託業者間の連絡・指示・協議等を非対面で進行
- ⑥リアルタイム集計、蓄積データは分析へ活用可能
- ⑦日報は各社の様式に合わせて自動作成⇒事務作業の大幅な効率化



日本工営株式会社

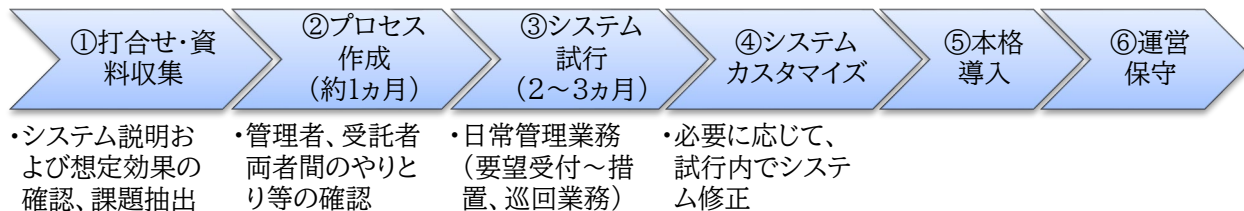
お問合せ

内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

実施フロー

「道路等維持管理支援システム Manesus」のシステムの良さを実感し、長く使っていただくため、下記に本格導入までの流れを示します。



プロセスの作成では、管理者 - 受託者（管理技術者 - 業務担当）の役割分担の明確化および共有するため、業務プロセスを細分化し、タスクを見える化します。

また、本格導入の前に2-3ヵ月間の試行期間を設け、システムの課題を抽出し、試行期間中に課題を解決することで、導入後のスムーズな運営をサポートします。

技術ポイント

「道路等維持管理支援システム Manesus」は、サーバーの設置・管理不要。システムインストール不要。インターネットに繋がれば使えます。年間契約により運営保守やOSのバージョンアップに対応します。

また、導入効果の一例として、試行後のアンケート結果では、要望対応1件当たり5～30%程度の作業時間の短縮や、効率向上の効果（管理者約5分/件、受託者約10分/件）がありました。以下に、項目ごとの効果を示します。



項目	縮減効果など
資料作成	◆住所など諸元情報を様式ごとに入力する作業が不要 ◆プルダウンメニュー等の入力支援により、入力手間が軽減 ◆住宅地図の印刷・スキャン等が不要 ◆指示書、日報等自動作成により、書類作成作業が縮減 ◆自動集計機能により、集計作業が不要
連絡	◆電話・メールでの詳細説明が不要 ◆指示・報告がリアルタイムで伝達可能 ◆web 地図利用により、位置の伝達齟齬が削減
協議時間	◆システム上で進捗状況が確認可能 ◆システム上で相互確認できるため、対面協議が削減 ◆資料を印刷しなくても、パソコンやスマホで協議確認可能
意思決定	◆リアルタイムで情報共有ができ、措置の要不要等の意思決定が迅速化 ◆データが一元化し蓄積されるため、今後データの利活用が期待できる ◆データ一元化により、情報共有や異動時引継ぎが容易となる

関連実績

3 自治体にて稼働中（2021 年 4 月時点）。

その他、複数の自治体で 試行提供を実施 しています。また、システムの操作説明会は 1.5 時間程度で完了し、極めて容易な操作性 となっています。



システム紹介動画公開中！！